

## 学校通信

# ひがしやま 第77号

発行日 令和7年2月7日(金)  
発行者 別府市立東山幼稚園  
別府市立東山小学校  
別府市立東山中学校  
校(園)長 谷川 芳明

## ○降雪による休校等の実施について(2/5)

大雪警報発令が予想され、2月5日(水)は保護者による園児・児童生徒送迎時の安全、校区内(遠くは山の口まで)を走行する通学バスの安全、県内公立全校種全学校の動向も参考し、休校としました。当日の午後は、北国かと思うほどの暴風雪。県内公立学校は本校を含む101校が休校及び繰り下げ等実施。2月6日(木)は、前日の積雪及び早朝の予想気温(平地で-2°C)を考慮。登校時間を2時間繰り下げ。県内公立全校種全学校は、本校を含む28校が休校及び繰り下げ等実施。子どもたちは、予定どおり城島高原パークでのスケート教室を楽しめました(喜)。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★



## ○本校への転入学希望者の増加について。

### 現状

平成10年度開校時から児童生徒数を一覧表に。今年度、児童生徒総数は過去最大。

### 分析及び要因

恵まれた自然環境、他校にない少人数のよさ、行事の多さなどの人気の要因は別として、一覧表からは①開校して、小規模特認校制度が導入されるまで②小規模特認校制度が導入され、普通教育機会確保法が施行されるまで③普通教育機会確保法が施行され、今年度までの期間のそれぞれの平均児童生徒数を比較。結果③の児童生徒数が最も多く、これは全国的な不登校児童生徒増加傾向(昨年度の全国不登校児童生徒数 過去最多34万人超)も反映されていると考えられます。

### 本校の状況

小学校は、教室が4、特別活動室が1。本校は複式学級(2クラスを統合。人数は14人以内)は2学級を前提。今年度、児童増加に伴い、複式学級が1学級。特別活動室を教室に転用したところ。通常、複式学級の経営は、教師が1人で異なる年齢層に対応。学力の定着や生徒指導において、より細やかな配慮・工夫が必要となります。また通学バスについても、その距離や搬送人数によっては、検討が必要です。

### 対応

①今年度7月から、これまでのやり方をあらため、小規模特認校制度の転学相談の「窓口」は、権限をもつ別府市教育委員会学校教育課が主体②教室不足を補うため、増改築要望3パターン(①2複式の場合②1複式の場合③全学級単学級)を図面にし、校長名で提出。この状況においては、文科省が推進する「不登校特例校」の設置や小規模特認制度の停止など、検討が必要かと考えますが。ちなみに3月18日(火)15時から、九州初の公立不登校特例校 玖珠町立くす若草小中学校(旧学びの多様化学校)の小原猛校長をお招きし、体育館で講演を開催。市教委社会教育課東山学びのカレッジ&本校PTAの共催。